上田薬剤師会 発

薬剤師の ちょっと薬に立つお話

YAKUNI TATSU OHANASHI VOL.80

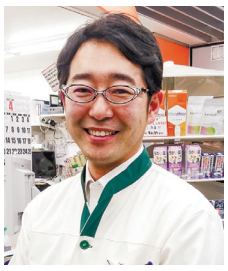
Vol.80

地域の皆さんの健康のためにさまざまな活動をしている上田薬剤師会から、健やかな毎日をつくるためにちょっと役立つお話をお届けしていきます。
毎月「第2土曜日」の週刊うえだを、どうぞお楽しみに!

今月のTOPICS

この騒ぎが終わっても忘れないで
公衆衛生と薬剤師

ウィルスや菌などから身を守るため、手洗いやうがい、マスク着用がこれほど推奨され、重要視される年もないでしょう。これらを含めた「公衆衛生」について、薬剤師の飯島伴典さんに聞きました。



「公衆衛生」ってどんなこと?

公衆衛生とは、「Public Health」=みんなの健康。世界保健機関(WHO)は公衆衛生を「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である」と定義しています。**薬剤師は、薬剤師法でも定められているとおり、この「公衆衛生」に深くかかわる職業**です。

薬剤師法 第一章 総則(薬剤師の任務)
- **第一条** 薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。

公衆衛生と薬剤師

「公衆衛生」はひとつの学問として、薬学系の大学をはじめ、医療系では分厚い教科書をまるごと学びます。しかし「知っていること」よりも、「できること」が重要です。たとえば、常に手洗い・うがいを正しくできる、マスクや手袋を正しく着脱できる、除菌剤と殺菌剤についてアドバイスできる、などです。

感染予防のためには、悪いものを中へ入れないことがポイントです。今年はことのほか手洗いやマスクが注目されたため、インフルエンザの流行が通常の年に比べ広がらなかった、というのがいい例でしょう。

健康と薬剤師

「健康」とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてがその人の完全な状態であることをいいます(WHO定義)。**薬剤師はメンタル面なども含めて、地域の皆さんの日々の健康を維持・増進するお手伝いをするのが役目**です。

薬剤師は、健康の役に立つ情報をたくさん持っています。小さなことでも相談していただき、ぜひ身近なかかりつけ薬剤師・薬局を活用してください。

はい、お答えします!

Q. 妊娠中の娘が、市販の頭痛薬は体によくないと言って飲みたがりません。妊娠中に市販薬を飲むのはダメなのでしょうか。(青木村・53歳・女性)

A. 多くの薬は妊娠中に使用しても大丈夫だとされていますが、市販の頭痛薬の多くは、妊娠の後半期に飲むと赤ちゃんの健康に大きな影響を及ぼすことがあると言われます。薬の種類や量、妊娠期間などによって影響の程度は異なるため、自己判断で使用するのは危険です。一方で、薬を控えることでお母さんの病気が悪化すると、赤ちゃんの発育に悪影響が出ることもあります。妊娠中、妊娠前、出産後に市販薬を使用する際には、必ず、医師または薬剤師に相談してください。

このコーナーでは毎月、読者の方からの質問に薬剤師がお答えします。
お薬に対する素朴な疑問、質問、なんでもお寄せください。

宛先
ハガキ 〒386-0012 上田市中央6-3-41 週刊うえだ「はい、お答えします!」係
メール weekly-ueda@po3.ueda.ne.jp
FAX 0268-22-6201

特集 テレビドラマ放映開始!で話題の
病院薬剤師

この春、薬剤師が主役のドラマが始まります。放映開始が延期になってしまいましたが、病院薬剤師が主役のドラマは日本では史上初なんだそうです。楽しみですね。

石原さとみさんがヒロインを演じる病院薬剤師について、薬剤師の小林初美さんに聞きました。

「病院薬剤師」とは

薬学を学ぶ大学(現在は6年制)を卒業して国家試験に合格すると、薬剤師の資格が得られます。薬剤師として働く先は、病院のほか、地域にある薬局、製薬メーカー、行政機関などさまざまです。

その中で病院薬剤師とは、病院や診療所で働く薬剤師のことをいいます。**病院に従事する医療チームの一員**であり、**他職種と一緒になって入院・外来患者の治療に携わります。**

「病院薬剤師」の仕事

病院薬剤師の主な仕事は、調剤業務、製剤業務、注射調剤業務、注射薬混合調整業務、医薬品情報業務、病棟薬剤業務、チーム医療、疑義照会とプレアボイド(薬剤による有害事象を事前に回避する)のほか、病院の規模によっては外来化学療法室、救命救急業務、治験業務などさまざまな仕事に携わります。**「お薬のスペシャリスト」として病院内で頼られる存在**です。

「病院薬剤師」のやりがい

病院薬剤師は、他職種連携のチーム医療に参加し、連携しながら患者さんにとって最善の治療を提案します。医師と直接やりとりができるので、処方の意図もつかみやすく、患者さん個々の治療に関わりやすいです。

医師や看護師はじめ**他職種の医療従事者や患者さん、患者家族とのやりとりも多いため、コミュニケーションも大切**となってきますが、患者さんの回復を確認しながら薬の説明をしたり、悩みを聞いて不安を払拭したりできるととてもやりがいを感じます。

病棟で、「こんな薬あるの?」と聞かれ、患者さんに合った薬を提案し、医師や看護師から頼りにされるのはもちろん、**患者さんに直接喜んでいただけた時はとても嬉しい**です。

さまざまな業務を経験するなかで、専門性を磨き、専門薬剤師の資格を取ることもできます。大変なことも多いですが、非常にやりがいのある仕事なので、これからもできるだけ長く、できるだけ多くの患者さんのお役に立てるよう努力していきたいと思います。

薬剤部での日々の仕事

- ▼医師が出した処方せん(電子カルテ)に基づき、調剤を行います。(①)
- ▼注射薬に、患者さんの氏名・薬剤名が記載されたラベルを貼付し、1日分セットします。(②)
- ▼最新の分包機で、患者さんが飲みやすいように1回分ずつまとめて分包します。(③)
- ▼途中で何度も確認しますが(④)、最後にもう一度薬が間違っていないか、なるべく多くの目でチェックします。(⑤)

詳しくは、かかりつけ薬剤師・薬局にご相談ください!

◀上田薬剤師会「認定基準薬局」の目印、グリーンクロス看板